

1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	平成28年 4月 1日 ~ 令和3年 3月31日
3. 業務の範囲	(1)根本交流センターの施設及び設備の維持管理に関すること。 (2)根本交流センターの使用許可に関すること。 (3)使用料の徴収に関すること。 (4)公民館事業及び児童センター事業の実施に関すること。

4. 採点表		評価項目		細目		配点	採点基準		実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	【公民館】 年次報告書P420(利用率) 【利用率(全体)】 34.0% 【利用率(部屋別)】 小ホール:51.4% 会議室1:30.2% 会議室2:40.6% 和室:17.7% 実習室:14.5% 児童センター 該当なし (新型コロナウイルス対応 一律4点)	4点	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	4点				
			②利用人数	5	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	【公民館】 年次報告書P421(利用人数) 【利用人数(全体)】 公民館:27,445人 (R1)52,324人 児童館:10,792人 (R1)28,284人 【利用人数(部屋別)】 大ホール:7,557人 小ホール:10,769人 会議室1:3,594人 会議室2:2,918人 和室:1,412人 実習室:1,195人 (新型コロナウイルス対応 一律4点)	4点	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	4点				
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部不実施(軽微):8～7点、仕様書の一部不実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点	【公民館】 年次報告書P423～434(文化事業一覧) ①公民館まつり ・第8回根本ふれあいフェスティバル 1,071人 ・根本交流センターまつり スマイルステージ 233人 ②地域意識醸成事業 三ツ星ファミリー事業 ・みんなでいもほり、環境美化活動、みんなでリース作り、歩こうあそぼう会(根本校区青少年まちづくり市民会議との共催) 4回 393人 ・ねもと茶論 5回 103人(討論型から、本年度は感染対策を講じてテーマを設けて、高齢者のための集う場を開催) ③コンサート 齊藤順子クリスマスコンサート 32人 【児童センター】 1. 乳幼児と保護者を対象とした事業:36回、754人 2. 児童を対象とした事業:40回、587人 3. 地域交流・多世代間交流事業:3回、1,304人 4. 中高生事業:3回、10人 5. 子育て相談と子育てネットワークづくりの推進:16回、273人	仕様書以上 13点	【公民館】 ・複合施設であることを生かし、幅広い世代が出演者やスタッフとして参加できている。 ・秋の「根本ふれあいフェスティバル」、冬の「スマイルステージ」は作品展示を中心に、基本的な感染症防止対策に留まらず、職員の工夫による新たな方法で開催した。 ・三ツ星ファミリー事業では、地域団体と良好な関係を築き、様々な交流機会が生まれた。「地域で子どもを育てる」という取り組みが、ボランティアの高齢者の喜びでもあり、子ども達にとっても良き思い出となった。環境美化活動では、周辺のゴミ拾いを園児から大人まで行い、生活圏内のゴミの多さに自分の住んでいる町を大切に作るきっかけとなる事業となった。 ・「ねもと茶論」は、テーマを設けたディスカッション形式のサロンを開催、恒例の紙芝居は密を避ける方法として大型スクリーンに投影するなど、コロナ禍での実施方法を工夫し、新しい形式で実施された。またテーマの内容によりシニア男性の参加促進にもつながっている。 【児童センター】 ・コロナ禍においても、ほとんどの事業で仕様に定められた回数以上に実施できており、多様で新たなニーズに応じた内容の充実に努めている。 ・コロナの影響を受ける中、定員制限を設ける等、職員の工夫と新しい試みにより、複合施設の利点を活かして地域交流に取り組めている。	13点					
			(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15～12点、内容・事業数等が例年通り:11～9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8～7点、内容・事業数等が例年より劣る:6～3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る 2～0点	【公民館】 ※年次報告書P423～434(文化事業一覧) ・地域へ広げる取り組み「ラジオ体操をはじめよう」1回26人 ・利用促進、定期利用団体の活動支援事業「ねもとオープンサークル」6回 64人 ・高齢者の学びの場「まなびの扉」～虹色ハーモニー、自力整体、バランスボール 52回 734人 ・三ツ星ファミリー事業「ねもとあったかクリスマス会」51人 ・中高生ボランティア「ねもとプレジャー★スター」6回 10人 ・NPO法人多治見ひなたぼっこ連携事業「重ねて、積んで、つみきで遊ぼう」「真夏のやさしいコンサート」「スツキリヨガでリフレッシュ」3回 101人 ・ギャラリーNEMOTO「きらめきアートの扉」他 【児童センター】 1. 乳幼児と保護者を対象とした事業:44回、526人 2. 児童を対象とした事業:16回、110人 3. 地域交流・多世代間交流:26回、2354人 4. 中高生事業:46回、132人 5. 子育て相談と子育てネットワークづくりの推進:1回、28人	期待以上 13点	【公民館】:13点 【公民館】 ・「ラジオ体操をはじめよう」を実施し、「気楽にできる」「ラジオ体操を続けてみる」など地域へ広げる取り組みができた。 ・同好会支援事業「ねもとオープンサークル」を実施し、コロナの影響により会員が減少した団体への援助・支援を行い、解散する団体を抑制した。 ・健康をテーマにした「まなびの扉」事業を展開し、高齢者の学びあいの場とした。 ・障がいのある児童の地域参加へのきっかけとなる事業を展開した。 【児童センター】 ・交流センター(複合施設)と根本地域の特色を活かした展開で、各項目とも子どもや保護者同士、地域・多世代の交流促進を図っている。 ・コロナ禍においても事業内容を工夫し、充実した事業を提供することができている。	13点				
		(1)施設管理業務の実施状況(10点)	①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する (適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	年次報告書P435① 施設内清掃(基準:毎日)を実施	適正(普通) 2点	適正に実施されている。 ・年2回の特別清掃にて床の磨き上げ、トイレの分解洗浄及び中庭のメンテナンスの実施。	10点				
②保守・点検	年次報告書P435② ・消防設備保守点検(基準:年2回)・・・年2回実施 ・空調機器設備保守点検(基準:年4回)・・・年4回実施 ・エレベーター設備保守点検(基準:年12回)・・・年12回実施		適正(普通) 2点			適正に実施されている。 ・太陽光パネルの不安定な状態を確認しつつ、来年度以降の改善に向けて調査を継続している。							
③保安・警備	年次報告書P435③ ・開館時間の巡回警備、機械警備業務(休館日を含む)を実施 ・年間を通して安全な状態を維持。監視カメラの設置により、警備体制を強化。		適正(普通) 2点			適正に実施されている。							
④小規模修繕	年次報告書P436④ 有償修理 全11件 総額 445,054円		適正(普通) 2点			適正に実施されている。 ・インターネット回線の設備を行い、新しい事業を展開。							
⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)	年次報告書P435⑤ ・2階屋根にできたコウモリの巣→駆除作業を実施 ・駐車場内での注意喚起 ・第1駐車場と第2駐車場との境目にある段差		適正(普通) 2点			適正に実施されている。							

2	施設管理状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	①文書管理	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	年次報告書P437① ・ファイリングシステムに沿って、文書に応じた適正な保存、保管。	適正(普通) 2点	・正しく文書管理を行い業務の効率化が図られている。	10点	
			②環境への配慮			年次報告書P437② ・職員による草ぬき、業者による剪定・消毒など計画的に緑化管理を行った。 ・ゴーヤで緑のカーテンを作り、成長を楽しむとともに夏場の節電対策につなげた。 ・小学生ボランティアと地域の川や道路のゴミ問題と考えたうえで、清掃活動を行った。 ・環境保全として工作あそびは廃材を利用し、リサイクルを心がけた。 年次報告書P437③ ・利用者に対して公平性をもって、共通ルールのもとで適切な対応を行った。 ・あそびを通してバリアフリーな関係づくりができる場所を提供しました。	適正(普通) 2点	・ゴーヤで緑のカーテンを作るなど節電対策、暑さ対策がされた。 ・環境美化活動の事業を実施し、環境保全の意識を高める機会を創出している。		
			③バリアフリー			年次報告書P437④ ・破損を放置しないよう細めにチェックを行い、不備を発見した際には速やかに対応。 ・利用者全体に協力いただいて、備品を大切に扱うこと、もしも破損があった場合は速やかに報告いただく関係性を大切にした。 ・実習室は持ち込み備品も多く忘れ物も多いため、使用後すぐにチェックを行った。 年次報告書P437⑤ ・広報、フェイスブック等の写真掲載については講座申込み時に承諾をいただいた。 ・個人情報を含む書類等の扱いに注意を払いキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーでの裁断をし、三の倉処理センターへ持ち込み処理を行った。 ・児童センター登録カードは使用頻度が多いため、取り扱いには十分気をつけている。	適正(普通) 2点	・コロナの影響で子どもたちの遊び場が縮小されたことにより、遊戯室の前室スペースを有効活用し、新たなあそびのコーナーを設けた。「密にならない遊び場」の提供に加え、年齢によって分け隔てがない「バリアフリーな遊び場」となり、異学年の交流を盛んにした。		
			④備品管理			年次報告書P437④ ・破損を放置しないよう細めにチェックを行い、不備を発見した際には速やかに対応。 ・利用者全体に協力いただいて、備品を大切に扱うこと、もしも破損があった場合は速やかに報告いただく関係性を大切にした。 ・実習室は持ち込み備品も多く忘れ物も多いため、使用後すぐにチェックを行った。 年次報告書P437⑤ ・広報、フェイスブック等の写真掲載については講座申込み時に承諾をいただいた。 ・個人情報を含む書類等の扱いに注意を払いキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーでの裁断をし、三の倉処理センターへ持ち込み処理を行った。 ・児童センター登録カードは使用頻度が多いため、取り扱いには十分気をつけている。	適正(普通) 2点	・破損を放置しないようにこまめにチェックを行い、不備を発見した際は速やかに対応した。 ・実習室は持ち込み備品も多く、使用後すぐにチェックを行い忘れ物防止に努めている。 ・定位置を決めて保管をし、利用者が使いやすいようにしている。		
			⑤個人情報保護			年次報告書P437⑤ ・広報、フェイスブック等の写真掲載については講座申込み時に承諾をいただいた。 ・個人情報を含む書類等の扱いに注意を払いキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーでの裁断をし、三の倉処理センターへ持ち込み処理を行った。 ・児童センター登録カードは使用頻度が多いため、取り扱いには十分気をつけている。	適正(普通) 2点	・広報、フェイスブック等の写真掲載について、講座申込み時に承諾をもらっている。 ・個人情報を含む書類等はキャビネット内で保管し、処分はシュレッダーまたは三の倉センターへ持ち込んでいる。		
			⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	年次報告書P438⑥ 1) 遊戯室で親子でバトミントンをしてあそんでいた。その保護者のほうへ幼児用車に乗った2歳児が近づいてきたため、慌てて避けてバランスを崩し、左側に転倒。左腕を強打する。 →痛みと腫れがひどく立ち上がれない状態だったため、県立多治見病院へ救急搬送。診断結果は脱臼。通院とリハビリを継続中。保険適用。 2) 同好会の活動終了後、会議室の机を片付ける際に、折りたたみの机で右手を挟む。当時は気になるほどのケガではないと思い、申し出をすることもなかったが、定期受診している医院でみてもらおうと骨折の疑いがあるといわれ、検査を受ける。その結果、骨折が判明し、県病院で手術を受けることになった。その後、交流センターへ経緯の説明があった。保険適用。 →ケガ2件。そのうち救急搬送1件あり。事故の対応は迅速に行うことを徹底した。また、事故が発生した場合、発生状況や状態を確認し再発防止策を検討した。	事故なし・対応に不備なし 0点	・救急搬送の事例が1件、加入保険を適用したケガ等が2件あったが、全て適切に対応している。		0点
3	当該施設の経営状況 (5点)	①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点	収入29,369,774円÷支出31,121,926円＝94%	100%未満 3点		3点		
4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5点、不備あり:4～1点	年次報告書P439 1) 子ども用アンケートBOX「うながっぱוסוס」の設置 →おもちゃや本のリクエスト⇒ニーズの把握をし、人気のボードゲーム、児童書を導入。 →学習スペースの要望⇒中学生が学習できる場所として「アオハルルーム」を立ち上げ。 2) 「同好会活動のメンバーが減ってきた。活動を継続するために力を貸してほしい」 →広報誌にて会員募集のご案内 →同好会活動を見て体験していただく事業「ねもとオープンサークル」を実施し、入会のきっかけと活動の継続支援を行った。 3) 高齢者のいきがいづくりの場 →「ねもとの昔話」や「ねもと茶論(サロン)」を実施 4) 地域のコーディネーターとしての役割 →各種団体をつなぐ「地域の拠点」	期待以上 9点	・交流センターと地域、関係機関・団体が連携して地域づくりを進めるため、地域の課題やビジョンを話し合う場を設け、その中で新しい事業展開が誕生している。 ・子ども達の声を受け止めるためのお手紙形式のアンケートBOXを企画し、様々な声を集め、事業に生かしている。 ・中学生の声から生まれた学習コーナー「アオハルルーム」の開設、「発表の場がほしい」「新しい仲間を増やしたい」との要望から定期利用団体の支援事業「ねもとオープンサークル」をロビーコンサートとして実施するなど、要望を実現させようと努めている。 ・高齢者の生きがいづくりとして「ねもとフォーラム」を実施し、「ねもとの昔話」やサロンを展開した。 ・各種団体と連携をとり情報発信につとめ、根本地域のコーディネーター役を担っている。	9点	
			②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは5点とする	・施設内に公衆Wi-Fiを整備するよう要望を受けた。多治見市の方針、施設としての考え方を丁寧に伝え、ご理解いただいた。	苦情なし・期待以上 5点	・大きなトラブルに発展しないよう初期対応にてきちんと話を聞き、不備があったことに対してはきちんとお詫びをするなどの誠意を持った対応で、問題にきちんと向き合い丁寧に解決している。	5点	
		(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15～12点、適正(普通):11～9点、普通未満～物足りない:8～0点	年次報告書P440 1) オンライン(ZOOM)で会議: 根本交流センター活性化委員会をコロナ禍でも開催できる形として、ZOOMを使って会議を実施した。地域の拠点施設として新しい形で会議を開催したことに大きな意義があった。 2) 全国優良公民館表彰をきっかけとしたZOOMを使った小学生交流会(前橋市、石狩市、福井市、多治見市): 第73回全国優良公民館表彰を受賞したことをきっかけに根本交流センターに興味関心をもってもらった全国の公民館がオンライン上でつながり交流会を実施した。ねもとボランティア☆キッズ(小学生ボランティア)が根本や多治見に関するプレゼンやクイズ大会等を行うために調べ学習に取り組んだ。	期待以上 13点	・コロナ禍においても地域とともに学びあいを継続する姿勢で、今できること・今だからできることを模索し、「チャレンジの1年」となっている。 ・Zoomを使ったオンライン会議・他県との交流、休館中にも学び続ける「おうちでやってみようシリーズ」は、コロナ禍だからこそ誕生した企画が展開されている。 特に、第73回優良公民館表彰を受賞したことをきっかけにオンラインで新たな交流の機会が生まれ、子どもたちの発展的な学習へとつなげるなど、新しい試みは今後も継続していただきたい。 ・各種機関や団体との連携・信頼関係を大切にし、子育て・学校・地域交流・健康・防災など様々な分野で地域のニーズにあった活動を展開されたい。	13点		
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする (遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3		遅れ・不備なし 減点なし		0点		
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3		指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点		
合計				100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下				合計84点	良好
									全体的な評価 ・コロナ禍であるが、地域とともに今できること・今だからできることを工夫し事業が展開されている。 ・オンラインをいち早く取り入れ、全国優良公民館表彰をきっかけに他県に取り組みを周知したり、情報交換をしたりするなど、新し試みを行っており、前向きな姿勢がみられる。 ・複合施設の利点を生かし、多世代交流が活発に行われている。	